

東京外国語学校と部活動



本企画展では、東京外国語学校時代における部活動のはじまりと活動について、当時の資料や写真の一部を紹介します。

1900年、校友会の発足により組織化された部活動の興りや柔道の国際化に貢献した者たちなど、戦前の本学における部活動の様子をお楽しみください。

- ◇ 日時：2018年3月23日(金)～2018年4月下旬
- * 開館時間は、附属図書館に準じます。入場無料
- ◇ 会場：附属図書館1階ギャラリー
- ◇ 問合せ：東京外国語大学文書館 042-330-5842
tufsarchives@tufs.ac.jp



【会場】
キャンパス内附属図書館1回ギャラリー(地図赤丸の場所)

東京外国語大学アクセス

- ◆ JR中央線 「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分 (JR新宿駅から約40分)
- ◆ 京王電鉄 「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分 「東京外国語大学前」下車) <http://www.tufs.ac.jp/access/>

1. 部活動のはじまり

東京外国語学校の部活動の萌芽は、1873年の建学直後に見られ、1877年頃には「有志がクラブを造って、学生が統一してボートを漕ぎ出した」と言われます。その後、1885年に東京商業学校に合併されると、部活動もまた同校に引き継がれます。

外国語教育の需要の高まりを背景に、1899年高等商業学校から東京外国語学校が独立すると、翌1900年には在校生組織として「校友会」が設置され、部活動が組織化されます。当初、第1部弓術・撃剣(剣道)・柔道、第2部ロケット・ベースボール・フットボール、第3部水泳・端艇、第4部陸上運動会の4部が置かれ、各部が主体となり、校内大会や対外戦が開催されていきます。



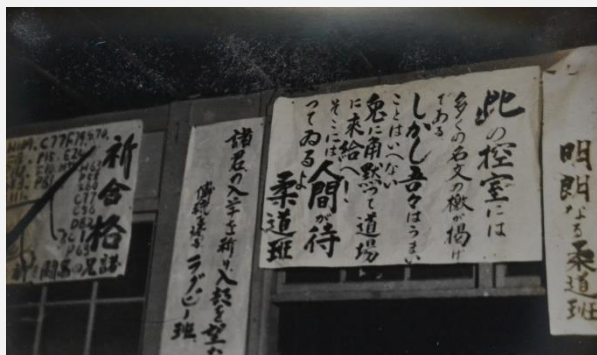
騎道班(馬術部)・繪畫班(絵画部)の活動風景(1942年アルバム所収)

3. 校舎移転と部活動

運動部にとって運動場や道場などの設備は欠かせません。独立当初は高等商業学校敷地内にあり、専用の運動場はなく、1903年の神田錦町の校舎新築により校内にテニスコートが設けられました。

その後1921年には、麹町区元衛町に語学大会も催される講堂と、運動場・道場・テニスコートを持つ校舎が新設されました。しかし1923年の関東大震災により校舎は全壊し、皇居お濠端、竹平町での仮校舎時代が始まります。竹平町の仮校舎は安普請の平屋建で、小さな運動場しかありませんでした。

1933年、滝野川区西ヶ原に移転先用地を確保すると、まず運動場とテニスコートが整備されました。



竹平町校舎生徒控室に貼り出された檄文の数々(1942年アルバム所収)



隅田川における学内競漕大会(1911年アルバム『SALVE SCHOLA』所収)

2. 多様化する部活動

部活動は、昭和初期にかけて数を増加させます。卓球部や籠球部、馬術部のほか、文芸部や弁論部、語劇(語学)大会部などの文化系の部活動も創設されました。文芸部主催の講演会や弁論部主催の弁論大会は、学内外で人気を博しました。

同時に、校友会に部活動として認可されていない団体も増え始めます。1931年には射撃部(射撃会)や短歌会、邦楽部(琴古流尺八の会)、洋楽部(洋楽の会)などありました。他方で、校友会に属さない同好会には予算が下りず、運営は苦勞していたようです。



元衛町校舎の運動場・道場・テニスコート(『東京外国語学校二十五周年記念寫眞帖』所収)

4. 戦時下の部活動

日中戦争が激しく進む1940年12月1日、校友会は解消され、「東京外国語学校報國團」が結成されます。報國團は教育勅語の主旨を体現し「報國精神一貫スル校風ヲ發揚」することを目的とし、部活動はその目的や活動を制限されていきます。従来の部は班へと改称され、新たに勤勞奉仕班や防空訓練班なども組織され、学生は2個以上の班に所属し「修練」に努めることが義務付けられました。

学生たちは戦時下にあっても、練習・大会への参加を継続しますが、日米開戦(1941年12月)以降、勤勞動員や学徒出陣により学生たちも戦争に動員され、部活動は縮小を余儀なくされていきます。